

参議院議員
石橋みちひろ

みちひろ と さよ

台東区議会議員
本目さよ(ほんめさよ)

石橋さん～！
お久しぶりです。新型コロナウイルスの影響で、実はよかったこともあるんですね。
GIGAスクールといって、学校教育のICT化がぐっと加速しましたよね。



そうなんです!!以前からすすめてきた学校のICT化が進みつつあることは本当にうれしい。



石橋さん、超党派といって、等に関わりなく政策で集まる国会議員の集まりである「議連」で活躍されていたんですね？



「教育における情報通信(ICT)の利活用促進をめざす議員連盟」ですね。事務局長をやっていました。



事務局長といったら実質的に推進している人材のポストというイメージです。台東区では2021年度中には一人1台のタブレットPCが配られました！校内で安心して使うための無線LAN環境もしっかり整備しました。



それはよかったです！議連で前からしっかり準備していたかがありました。本当はもっと早くに整備したかったのですが、なかなか進まず。
コロナが後押ししたことは本当に確かですね。



ただ、わたし、監査でも学校に伺っているのですが、学校ごとによってもばらつきがある印象です。台東区としても、保護者とのやり取りもICT化するためのスママチというシステムをいれたり、就学前にも広がっていて、令和4年度予算でも区立保育園の連絡帳システムの予算もついたんです！



ただ、わたし、監査でも学校に伺っているのですが、学校ごとによってもばらつきがある印象です。台東区としても、保護者とのやり取りもICT化するためのスママチというシステムをいれたり、就学前にも広がっていて、令和4年度予算でも区立保育園の連絡帳システムの予算もついたんです！



就学前教育にもICTの流れが広がっているんですね。それば素晴らしい。国と地方で一緒に同じ方向を見ているからですね。本目さん言うように、やっぱり現場によって本当に違うんですよ。そこが難しい。



そうなんです。せっかくシステムをいれても、現場で使ってもらえなければ無駄だし、コロナ禍で、学級閉鎖になったときにすぐにオンライン授業ができる状態に本当はしておきたかったよね、と思います。



GIGAスクール構想の本来の目的は、ICTを活用して、子どもたちの学びを支援することです。そのためには、学校の先生方に、ICTを活用した効果的な授業のやり方についてのスキルやノウハウを身に付けてもらい、効果的に実践してもらう必要があります。ガイドラインや教員用のデジタル教材、支援ツールなどが蓄積・開発されてきています。現役の先生方に研修を受けていただけるように予算措置を行うなどの環境整備にも力を入れて取り組んでいます。



耳が痛いですが・・・
現場の先生によっては、ICTの得意な先生・不得意な先生でだいぶ差がついてしまっているようです。
国でつけている予算を活用して、台東区でも個別最適化された学びができるようにがんばりますね。

ほんめ

本目さよ

1982年3月10日生 成蹊高校、白百合女子大学を経て、お茶の水女子大学大学院修了。研究テーマは『夫婦の情緒的サポートと育児ストレスの関係』。修了後はIT系人事職として、社員が働きやすい会社づくりにつとめる。2011年より台東区議会議員。2019年3月に3選を果たす。台東区では唯一の未就学児子育て中の女性議員。
声なき声を聞くという意志と、少子高齢化への特効薬としての子育て支援に力を入れていることからキャッチフレーズは「子育て、本命！ーやさしい政策ー」「議員のあり方」とは何か？を模索しながら区民の方々との双方向的な取り組みを実施している。政策を実現できる女性議員を増やすための超党派若手女性議員のネットワーク「WOMAN SHIFT」代表。子育て・若者支援特別委員会所属。一児の母。
ママのインターン受け入れ中。



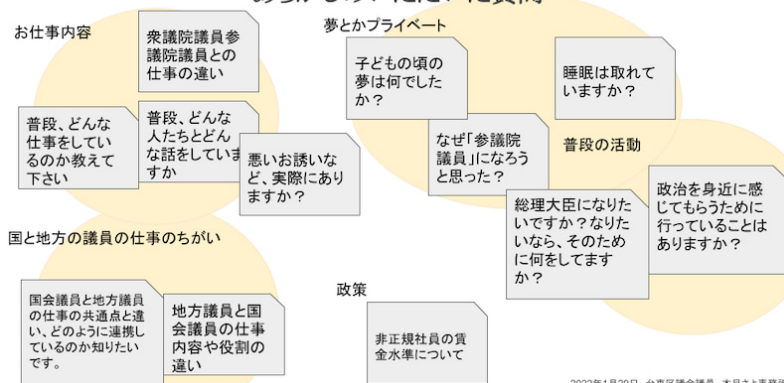
国会議員と話してみよう！イベント開催報告

国会議員と話をする機会なんてめったにないよね？ ということで、企画をしてみました。

表面でも書いた教育ICTに関して、あとは子どもでもわかるような形の国会議員と話してみよう！というプログラムの豪華二本立て。



あらかじめいただいた質問



小学生の参加者からは「参議院議員って普段どんなお仕事をしているの？」「そもそも参議院と衆議院の違いとは何ですか？」「お昼はどんなものを食べているの？」「睡眠は取れているの？」といった純粋な子どもらしい質問があり、丁寧にわかりやすく石橋参議院議員は答えてくれました。（大人だと伝わることで小学生に分かりやすく説明するのはとても難しいのです。）

第2部では、「小中学校1人1台タブレット導入をすすめた国会議員に聞く、教育ICT化のこれまでとこれから」をテーマに教育現場におけるICTについてお話を伺いました。

石橋参議院議員からは「GIGAスクール構想」についての基本的な概要をお話いただき、特に小学生の子を持つ参加者からは、「台東区の現状」が伝えられました。

ICT化はコロナ禍をきっかけに授業としてどんどん導入されるようになったため、教員、生徒でより良い授業の在り方を模索している段階にあると言えるかもしれません。コロナ禍の前に「GIGAスクール構想」を国会で議論し、タブレットが生徒1人1台持てるようになっていたからこそ悩みなのですね。

～石橋議員からのお話～

教育分野におけるICT利活用の最大のメリットは、子どもの興味、関心や習熟度などに合わせた、子ども本位の教育が可能になることにあります。

2010年に「フューチャースクール推進事業」や「学びのイノベーション事業」が始まって以降、実証事業は徐々に拡大しましたが、国において予算の確保は思うように進みませんでした。私は、2013年にまず超党派の勉強会を立ち上げ、2015年にはそれを超党派の「教育における情報通信（ICT）の利活用促進をめざす議員連盟」に衣替えし、その活動を通じて見えてきた現場の課題を解決するために、教育のICT利活用を推進するための基本法をつくることにしました。様々な下準備や本格的な議論の結果、2019年6月、通常国会で「学校教育における情報化の推進に関する法律」が見事、成立しました。

その後、新型コロナウイルスが流行し始め、3月に安倍首相が一斉休校を要請すると、子どもたちの学ぶ権利をどう守るのかが大きな課題になりました。在宅授業ができた自治体もありましたが、多くの地域では対応できませんでした。

そこで政府は、当初5年計画だった「GIGAスクール構想」を1年間に大幅に短縮して、1人1台端末環境の整備を急ピッチで進めることを決め、2020年4月の補正予算でさらに2300億円を積み増したのです。同時に高速大容量通信基盤等のインフラ整備事業にも約500億円の予算が付きしました。

教育分野でのICTの利活用は、次代を担う子どもたちに、より良い学びの環境を提供し、個性や自主・自立性を伸ばしてもらうための取り組みです。これからも、次代を担う子どもたちのために力を尽くしていきます！



子育て、本命！

発行：
台東区議会議員 本目さよ
台東区谷中3-24-8-203

